みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

アラスカ先住民イヌピアットによるホッキョククジラの解体と分配

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岸上, 伸啓 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5090

私たちのフィールド

アラスカ先住民イヌピアットによるホッキョククジラの解体と分配

国立民族学博物館教授　岸上（きしがみ）　伸啓（のぶひろ）

イヌピアットの捕鯨

アラスカ北西部沿岸に住む先住民イヌピアットは、北極海を季節的に回遊するホッキョククジラを捕る捕鯨の民である。私は彼らの捕鯨活動やクジラ観に魅せられて、二〇〇六年から捕鯨と鯨肉の分配に関する調査をバロー村で開始した。

捕鯨村地図

アラスカ最北端に位置するバロー村では、ホッキョククジラが近くの沖を回遊する五月ごろと一〇月ごろの年二回、捕鯨が行われる。村には船長（以下キャプテン）夫妻と約八名のハンターからなる捕鯨グループが、五五あまり存在している。

クジラを追うイヌピアットのハンター／2010年5月
バロー村の近く

ホッキョククジラ（以下、クジラ）は成獣で体長が一五～一八メートル、体重が五〇～六〇トンになるが、バロー村では体長が一〇メートル前後、体重が約一五トンのクジラが好まれている。近年は一年あたり約二〇頭が水揚げされている。

ここでは、クジラの解体と分配について紹介したい。

クジラの解体と分配

捕獲後、春季捕鯨では近くの海氷上で、秋季捕鯨では村の近くの海岸でクジラの解体と分配が行われる。まず、キャプテンがタヴシ（*tavsi*）と呼ばれる部位に解体用大型ナイフで切れ目を入れた後、解体作業が開始される。バロー村では、通常、クジラは、次のような部位に分けられるが、それぞれの用途や分配先が規則で決まっている（図表）。

クジラに最初にナイフを入れるキャプテン／2010年5月
バロー村の近く

(1) *Tavsi*：性器の位置から後方に幅約三〇センチメートルの部分の肉と脂皮は、半分が捕獲に成功した捕鯨グループのものになり、残りの半分はキャプテン宅での祝宴で村人に振舞われる。

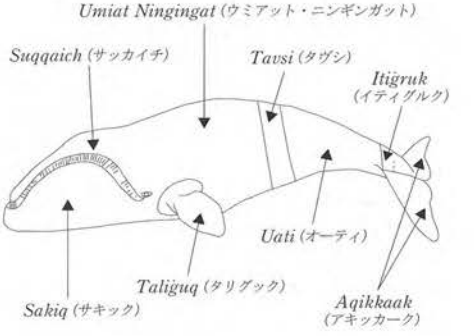
(2) *Uati*：タヴシの部分から尾ひれまでの部分は、キャプテンの地下貯蔵庫で保管され、ナルカタック祭や感謝祭、クリスマスの時の祝宴に提供される。

(3) *Itigruk*：この部分は、キャプテンの地下貯蔵庫で保管され、ナルカタック祭の祝宴に提供される。

(4) *Aqikkaak*：二枚の尾びれは、キャプテンの地下貯蔵庫で保管され、ナルカタック祭や感謝祭、クリスマスの時の祝宴に提供される。

(5) *Umiat Ningingat*：髭とあご、二枚の胸びれの部分を除いたタヴシから口先にかけての部位は、解体を助けたほかの全捕鯨グループに提供される。

(6) *Suqqaich*：髭の半分は捕獲に成功した捕鯨グループに、残りの半分は



図表　ホッキョククジラの分配部位の名称

クジラを曳航するのを助けた捕鯨グループに提供される。

解体した鯨肉や脂皮の分配／2010年5月　バロー村の近く

(7) *Sakiq*：口から顎にかけての部位の半分は、捕鯨に成功した捕鯨グループのキャプテンのものになり、残りの半分はクジラを曳航するのを助けた捕鯨グループの間で平等に分配される。

(8) *Taliğuq*：一方の胸びれは銛の打ち手に与えられ、もう一方は解体場所にいるすべての捕鯨グループに与えられる。

(9) *Utchik*（舌）：舌の半分は解体に従事しているすべての捕鯨グループに与えられ、舌の四分の一はキャプテン宅での祝宴で、そして残りの四分の一はナルカタック祭の祝宴で振舞われる。

(10) 心臓と小腸、腎臓：半分はキャプテン宅での祝宴で、残りの半分は、キャプテンの地下貯蔵庫で保管され、ナルカタック祭で振舞われる。

解体と分配がひと通り終了し、キャプテンが号令を出すと、だれでも残った肉や脂肪を自由に取ることが許される。

このように、捕獲に成功した捕鯨グループは、獲物のクジラを独占的に所有するのではなく、クジラの解体や曳航を助けた捕鯨グループや他の人々に規則に従って分配される仕組みになっている。

祝宴を通しての分配

捕鯨に成功したキャプテン夫妻は、数度の祝宴でクジラの肉や脂皮を村人に提供する。

捕獲・解体が終わった翌日には、クジラを捕獲したキャプテン宅で、村人を招待して祝宴が開催される。この時に料理され、振舞われるのは、タヴシと呼ばれるベルト状の部位の半分、および内臓の約半分である。約一〇〇〇食分が用意される。また、キャプテン宅にやって来ることができない老人や寡婦には鯨料理が配達される。

五月下旬から六月上旬にかけて、春季捕鯨に成功したキャプテン夫妻は、それぞれアプガウティと呼ばれる祝宴を海岸で開催し、村人にミキガック（肉、脂皮、血液を混ぜ合わせ発酵させた料理）やガンのスープなどを提供する。大規模な場合には四〇〇名以上の村人が参加する。

ナルカタック祭の祝宴のために鯨肉を切り分ける／2011年6月　バロー村

六月下旬から末にかけて、単独もしくは複数のキャプテン夫妻が連携して一日がかりのナルカタック祭を開催する。この日、正午、午後三時、午後五時と三回の食事が村人に振る舞われるほか、ブランケットトスや伝統的なダンスも行われる。通常、毎年二回から四回開催されるが、一回につき二〇〇〇名以上の村人が参加する。

また、一一月の感謝祭と一二月のクリスマスの時には、それぞれ村の複数の教会で祝宴が開催されるが、その年に捕鯨に成功したキャプテンは、捕獲したクジラのオーティ（*Uati*）やイティグルク（*Itiguruk*）、尾びれの部位の約三分の一をそれぞれの祝宴に提供する。キャプテンたちはイヌピアットが所属している長老派教会など三つから五つの教会に提供している。さらに、ほぼ二年に一度開催される使者祭では、キャプテンやハンターたちがクジラ料理を寄贈する。

このような公の祝宴が一年あたりのべ二〇回以上開催され、鯨肉や脂皮、内臓、ミキガックが村人によって共食されている。

個人的な分配や交換

祝宴での共食以外にも鯨肉や脂皮は分配される。ひとたび鯨肉や脂皮が、各捕鯨グループでキャプテンやハンターに分配されると、彼らは自分の取り分の一部を同じ村に住む親や兄弟姉妹、オジ、オバなどの拡大家族内のメンバーや義理の両親、友人などに分配する。また、近隣の村やアンカレッジなど村外に住む家族や親族、友人などにも鯨肉や脂皮を送っている。さらに、村外の先住民を相手にクジラの脂皮を干ザケなど他地域の産物と交換することがある。

キャプテンやハンターは、狩猟に従事できない老人や寡婦、生活に困っている世帯に自分の取り分の一部から鯨肉や脂皮を贈与する。また、死者がでた家族に贈与することもある。

広範に流通する鯨肉や脂皮

イヌピアットは、鯨肉や脂皮を金銭で売買しておらず、捕鯨自体は、利益を生み出す商業的なものではない。しかもここで紹介したように、捕獲に成功したグループは捕獲したクジラの一部しか自分たちのものとすることができず、大半を祝宴や自主的な分配によって他のイヌピアットに分け与えている。たしかに腕の良いキャプテン夫妻やハンターは、祝宴を開催することや肉を分配することによって社会的名声をえることができる。それでも、なぜ、イヌピアットはコストと労力がかかる捕鯨を続け、獲物の大半を他のイヌピアットに分配し続けているのか。この解明が、私の当面の研究課題である。